

令和6年産小麦の作況と麦類の当面の技術対策

技術支援課
(普及指導室)

生育の概況	11月に播種されたほ場の生育は順調に進み、二条大麦で平年より10～14日程度、六条大麦・小麦で7～10日程度早まっている。生育の大幅な前進に伴い、凍霜害の発生が懸念される。
作業の進捗状況	麦踏み、除草剤散布、追肥、排水溝の整備

1 気象経過（前橋地方気象台データの平年比、2月は20日まで、参考資料参照）

項目	11月	12月	1月	2月
平均気温	+1.3℃	+1.7℃	+1.9℃	+2.8℃
降水量	79%	59%	96%	131%
日照時間	115%	110%	108%	97%

2 生育概況

(1) 概要

播種作業は概ね順調に進んだ。播種後は乾燥傾向となったため、出芽がやや緩慢となったが、12月中旬の降雨後、気温が高く経過したことから生育は進んだ。初期生育は順調で、播種が早かったほ場を中心に草丈、茎数は平年を上回り、麦踏みの開始時期も早まった。12月下旬から1月中旬で再び乾燥傾向となったため、大麦の一部で下葉の黄化・葉先の枯れが見られたが、1月下旬から2月上旬の降雨により回復した。2月20日は伊勢崎地区で夏日を記録するなど、2月中旬は気温が平年より著しく高く推移し、二条大麦で10～14日程度、六条大麦・小麦で7～10日程度生育が早まっている。

平年よりも生育が前進しているため、凍霜害の発生が懸念される。

(2) 病虫害・障害等の発生状況

病虫害は目立った発生は無く、湿害は平年より少ない。

雑草は、スズメノテッポウ、ネズミムギ、ヤグルマギク、ヤエムグラ、カラスノエンドウの発生が一部が多い。

大麦では乾燥による下葉の黄化、葉先枯れが見られたが、回復傾向となっている。

(3) 作況ほ等の調査結果

作況ほの播種期の平均は11月25日（過去平均比+4日遅い）、2月20日現在の草丈の平均が14.9cm（同141%）、茎数の平均が1,235本/m²（同137%）となっている。

農業技術センターの生育基本調査結果（小麦「さとのそら」、11月15日播種）では、2月10日現在、草丈が10.9cm（過去10カ年平均比121%）、茎数が673本/m²（同136%）となっている。また、2月20日には幼穂形成始期を迎えており、平年より11日早い状況となっている。

(4) 作柄のまとめ

小麦の作柄は、各地区とも全て「並」であることから、県内の平均作柄は「並」が見込まれる。

表1 小麦作況ほ調査結果（さとのそら）

地 区	播 種 期	12月20日		2月20日	
		草 丈 cm	茎 数 本/m ²	草 丈 cm	茎 数 本/m ²
平 均	11月25日(+4日)	7.1(85)	231(96)	14.9(141)	1,234(137)
前橋市	11月22日(-日)	7.4(-)	200(-)	10.6(-)	1,216(-)
伊勢崎市	11月27日(+5日)	6.8(86)	223(99)	15.6(166)	1,562(202)
高崎市	11月24日(+9日)	7.8(76)	197(82)	14.3(117)	908(79)
太田市	11月30日(+1日)	4.8(87)	163(71)	11.8(117)	756(146)
千代田町	11月19日(±0日)	9.0(93)	343(125)	17.7(166)	1,713(146)

*各地区の()内は過去の平均値に対する日数および比率(%)。

日数の「-」は早い、「+」は遅いことを示す。

過去の平均値は、前橋市はほ場変更により過去値なし、伊勢崎市は過去2年、高崎市は同4年、太田市は同10年、千代田町は同2年の値。前橋市は県平均から除外した。

表2 普及指導課・地区農業指導センター管内の麦類の作柄概況

地 区	県平均	中 部	伊勢崎	西 部	東 部	館 林
作柄概況	並	並	並	並	並	並

3 技術対策

(1) 追肥

茎立期前に追肥を実施し、収量・タンパク質含量の安定と向上を図る。

追肥量は10a当たり窒素成分で「さとのそら」「つるびかり」「シュンライ」2～3kg/10a、「ゆめかおり」2～4kg/10a、「きぬの波」4～6kgを目安とする。

また、パン用小麦では、高タンパク質含量確保のため、出穂期～開花期に窒素成分で2～4kg/10a追加で施用する。

(2) 麦踏み

凍上害・凍霜害・乾燥害の防止、分げつ促進および倒伏防止を図るため、麦踏みは茎立期前まで実施する。本年は生育が前進しているため、生育ステージをよく確認し、実施時期に留意する。

近年は登熟期の枯れ熟れが多いことから、麦踏みの実施により根張りの向上と保水性の向上を図る。ただし、土壌水分が高い場合、土壌が凍結している場合は作業を見送るとともに、湿田での過剰な麦踏みは避ける。

(3) 排水対策

近年は、気象条件が極端化する傾向にあり、生育中に大雨に見舞われる場合があるため、排水溝の確認や連結部分の手直しを行い、大雨時の速やかな排水を図る。

(4) 病虫害対策

赤かび病の感染を防ぐため、ほ場周囲に放置された稲わら等を除去し、畦畔を含めたイネ科雑草の防除を行う。

(5) 雑草対策

今後、麦や雑草の生育が急速に進むことから、草種や生育状況を確認し、殺草限界を超えないよう適切に処理する。

【参考資料】

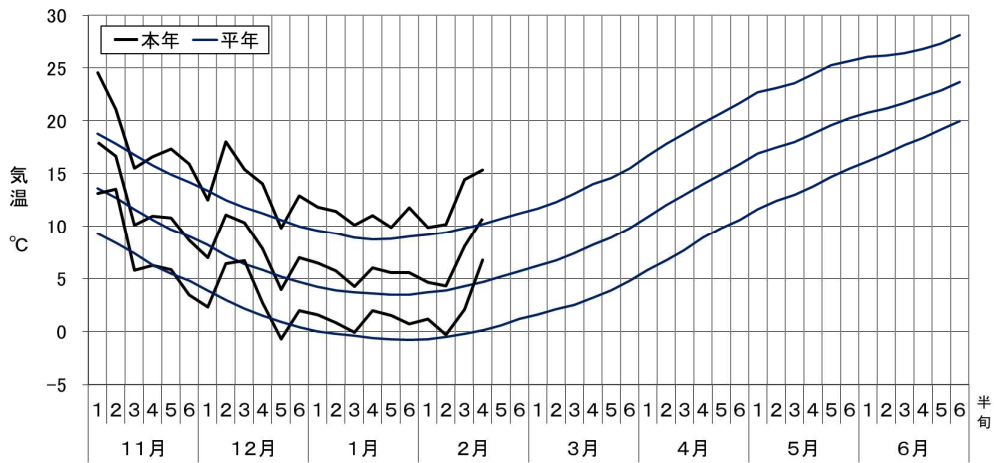


図1 麦作期間の気温（前橋地方気象台）

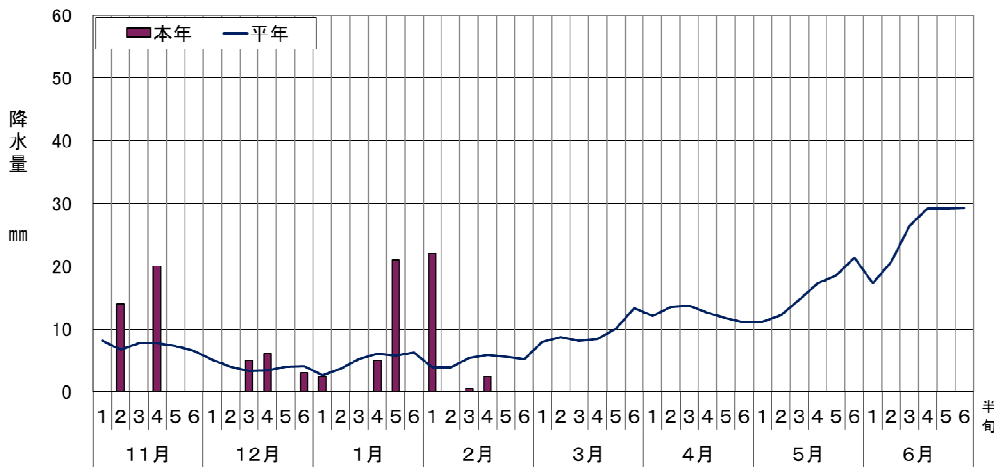


図2 麦作期間の降水量（前橋地方気象台）

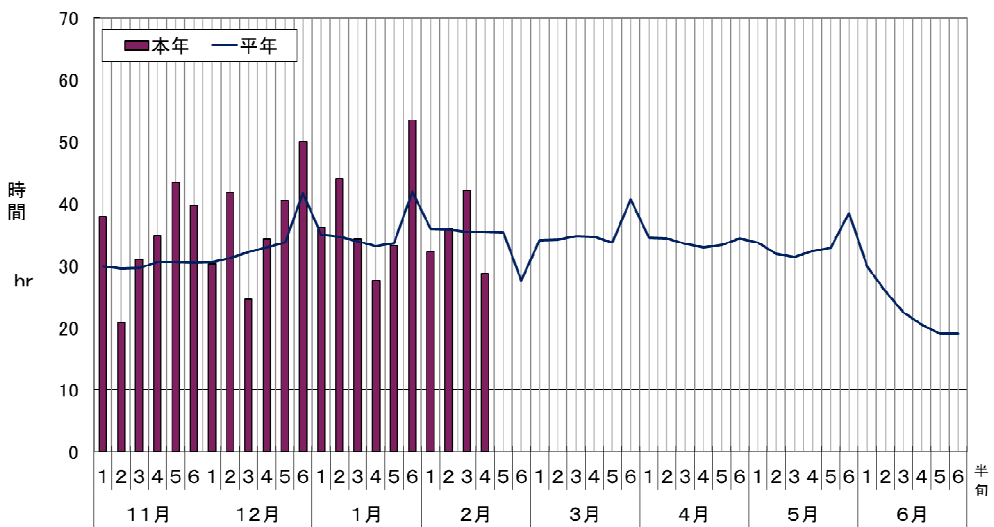


図3 麦作期間の日照時間（前橋地方気象台）